

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 10 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491900258		
法人名	社会福祉法人 優輝福社会		
事業所名	グループホームのぞみ苑		
所在地	〒729-4303 広島県三次市三良坂町灰塚37番地 1 2 (電話) 0824-44-3738		
自己評価作成日	令和5年10月6日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	なし
-------------	----

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年10月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>誰にとっても「心地よい」と感じられる事業所を目指し、ご利用者のやりたいこと・好きなことに寄り添い、実現できるような支援に取り組み、地域の行事に積極的に参加します。地域の一員として出来ることを小さいことから実践します。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>年間の重点目標を掲げ、研修体制の充実やホームが目指すべき理念及び方針を明確化している。平屋を有効利用し、ユニット間を開放し、いつでも利用者が往来し、交流している。特に機能訓練に力を入れており、法人の理学療法士との連携により月2回訪問され、利用者個々のリハビリメニューを作成し、機能維持、向上を目指している。四季を感じる取り組みとして、ドライブ、テラスでの外気浴、周辺の散歩、神社や美術館など外出をしている。職員の担当制により、要望に対しても即実行ができるように、申し送りやユニット会議などで、話し合いを重ね支援の充実を図っている。日頃から職員同士が話しやすい雰囲気づくりを構築し、情報を共有しながら『いつも一緒に大笑い、楽しい一日、ありがとう』をモットーに日々支援に取り組んでいる。</p>
--

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	業務着任時に確認できるように掲示し毎日唱和することで理念の徹底を図っている。理念の中にある「ともに笑いともに感じともに生きる」ことをめざすためには、その理念を共有して実践の中で話している。	毎朝申し送り時に唱和をし、ケアを実践する上での立ち返るべき原点としている。年間の重点目標を掲げ、ユニット会議で半年毎に振り返り下半期に繋げている。令和5年4月に法人移行に伴い上半期を振り返り、下半期は地域貢献活動の再開準備、利用者との関りを深める取り組みをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染予防の為外出は控えていたが、徐々に個人での外出は可能になっている。また地域の方がボランティアとして来苑もされるようになった。地域全体での取り組みは状況を鑑みて実施している。地域の文化祭へ苑内の様子や作品展示などは実施している。	町内会加入により、地域情報を得ている。地域行事が再開の中、文化祭への参加、平和の集いでは、灯籠づくり、千羽鶴など協力している。コロナ禍前は小学校、中学校との交流があったが、高校生の実習生の受け入れなど再開可能な事は実行している。併設のトレーニングルームを地域に開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	トレーニングルーム併設にあたり独自事業の実施。月2回専門職の指導を実施。希望者が指導を受ける体制がある。その他相談にも応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染予防の為7月と3月は開催したがその他は書面での開催とし文書にて役員の方には報告させていただいている。また質問状も併せて送付し意見交換としている。それをもとにサービス向上に向けて取り組んでいる。	感染状況に応じて書面又は対面会議をしている。対面会議の会場はホーム目の前のコミュニティーセンターを活用している。利用者状況、活動状況、事故報告、今後の活動予定など報告している。参加者から『事故報告を詳しく知りたい』の要望から、個人が特定されない様式を作成し、より具体的に報告している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所・支所、地域包括支援センターなどへパンフレットを配布している。市と法人との連絡会において入居状況などを報告し、必要な連絡調整を行っている。(地域ケア会議への参加)	市との連携は、各ユニットのホーム長が主にやり取りをしている。2~3ヶ月毎の地域密着型サービス事業所連絡会の会合へ参加し、他事業所の取組み状況を参考にしている。毎月の地域ケア会議は職員の参加者を固定せず、他の職員も参加する事で地域ニーズを把握出来るように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に身体的拘束適正化委員会を開催し、それを基にユニット間でも検討し身体的拘束についての意識を高めるようにしている。現任者研修でも各自取り組んでいる。</p>	<p>3ヶ月毎又は随時の身体的拘束適正化委員会を開催し、不適切なケアがないか振り返りをしてしている。職員は利用者に寄り添って日々支援することで身体拘束をしないケアを目指して取り組んでいる。言葉の拘束にならないようにスピーチロックを含め、言葉遣いに気を付けて支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者や介護リーダーが、日々目を配り虐待行為に接触するようなことがあれば、直ちに注意し理解するよう説明をしている。現任者研修でも各自取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>ユニット会議を毎月1回行い、管理者・介護リーダーを含めて職員間で知識の共有をしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>時間を十分に取り納得したうえでやっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>本年度の運営推進会議は開催を行うようにしている。ご家族の意見や地域交流の回り方などを確認している。</p>	<p>毎月、写真と一緒に職員のコメントを添えた便りを家族へ送付し、身近な出来事を知らせている。本人が『外へ出たい、庭の草取りがしたい』など要望があれば、気候によっては朝の内にテラスや散歩に出掛けたり、朝の涼しい時間帯に草取りを一緒にするなど本人がやりたい事を実現している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員との面接・ユニット会議への参加により、意見・提案を聞きなるべく採用するように努める。</p>	<p>管理者は、日頃から職員個々と話し合いをしている。毎月のユニット会議で職員の意見や提案など聞く機会を設け、出来る限りの対応をしている。法人として『資格取得の斡旋、希望休の取得、個々の職員の状況に応じた勤務時間』など柔軟に対応し、働きやすい職場環境の充実に努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人の移行により職場環境が変わったが、従来の働き方を基に協議しながら改善している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>まずは法人内での新人研修から始めている。毎月決まっている研修内容に合わせてビデオ研修を始め確認作業を実施している。各種必要な研修を実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域密着型サービス事業所の交流会が定期的に開催され、三次市市内の事業所間の情報共有が行える。また、交流会の中で研修を計画され参加するようにしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>契約前には事前に面接を実施して、ご本人やご家族の要望を伺っている。安心して施設に馴染んでいただけるように、見学の実施を行う。</p>		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ケアプランに家族の要望を取り入れるようにしている。定期的な連絡などで意見交換を積極的に行っている。毎月月末には各担当者・看護師・管理者による苑内での生活の様子を手紙にて伝えている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人・家族と十分に意見交換をし、アセスメントを行っている。その結果をサービス計画書に取り入れている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ともに生活する場と考え、掃除・洗濯物たたみ・食器拭き・クラブ活動など本人が持っている能力を踏まえ、同等の作業や会話をするのを心掛けている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>感染症の関係で面会においては制限をしながら実施させていただいている。担当者、看護師、管理者より毎月健康面・生活面の状況を手紙にて報告し、活動されている写真を同封し家族に送付している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>面会に来てもらったり法事や墓参りに外出されたりしている。手紙を書いていたいたり、会話による情報収集を行っている。</p>	<p>感染状況に応じて、居室面会、事務室での対面会など柔軟に対応をしている。家族の協力を得て、馴染みの美容院、お墓参りや法事、病院受診など外出している。友人への手紙送付、年賀状や電話でのやり取りをし、馴染みの関係継続に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	何事にも複数での作業を行い、職員が間に入るにより対人関係を成立させている。孤立化を防ぐため出来るだけ共同で作業をし、行動できるように努めている。毎朝体操やレクリエーションなどを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院等の方には病院の地域連携室と情報共有し、家族には電話をしてつながりを持ち続けている。帰宅困難と思われる入居者には次の入所施設などを紹介したり支援したりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の中での会話において情報収集に努めている。それらはケアプランに取り入れサービス提供されることになっている。	職員の担当制により利用者個々のニーズを把握している。意思表示が難しい方には、本人の日頃の状況から受け止め、何事も本人主体で物事を考えている。耳の不自由な方には、ボードやジェスチャー、絵カードなど活用したコミュニケーションを取るように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントを行い職員にも徹底されている。また随時本人、家族に聞き取りを行っており追加記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人カルテに記入し、管理されている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ユニット会議を必ず毎月1回開催しケアプランの点検、また新しく取り入れることなど検討している。毎月のモニタリングも実施している。定期的にケアプランを見直すようにしている。</p>	<p>毎月のユニット会議で利用者毎の担当職員が利用者個別の検討事項を挙げ、現在の状況、検討結果を受け、計画作成をしている。毎月のモニタリングを実施し、定期的にケアプランを見直している。日頃の観察状況を把握し、機能レベルを落とさないように、なるべく日中は活動量を増やした内容としている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人カルテには毎日の生活歴が簡潔に整理されている。翌日出勤者が閲覧することで情報を共有している。これを参考にケアプランが作成されている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>発生したニーズはユニット会議で検討され、様々なサービスを検討し実際にその人にあったものが採用されている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>新型コロナウイルス感染予防の為、地域との交流は出来ていないが、管理者がのぞみが丘運営協議会と連携を取り情報を収集している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人、家族の受診への要望は出来る限り対応している。また、主治医による定期的な往診もお願いしている。入居者に体調の変化があれば、些細なことでも主治医に報告をし、判断を委ねている。</p>	<p>今までの病歴や訪問診療の状況から利用時に相談し、以前のかかりつけ医を継続又はホームの協力医を選択している。耳鼻科など他の専門医の受診は家族と相談し、事業所対応又は家族の協力のもと支援を行っている。令和5年4月から看護職員を配置し、緊急時の対応、アドバイスを受ける体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期受診における同行や往診時の対応を看護師がされている。家族からの要望、職員の観察における疾患の情報は随時主治医へ連絡し指示を受けて受診の同行するなど支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医による定期受診をお願いしている。入院中も地域連携室から情報提供を求め、現状把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族が希望されれば入院・治療を優先している。その後は主治医、家族と協議をして決めている。事前に特養を希望されている家族に対しては特養入所の検討をしている。	利用時に『看取りに関する指針』を説明している。重度化した場合、その都度、家族や医療関係者とカンファレンスを行い方針を決めている。医療ニーズが高い方など事業所で対応が難しい場合は、特別養護老人ホームや病院での対応としている。希望があれば家族も寝泊りが可能としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し常時見えやすい所に掲示している。実際に事故発生時にはマニュアルに沿って行動している。その後、事故報告書を作成し職員等で検討している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回施設全体での避難訓練を行っている。緊急連絡網の整備を行っている。	緊急連絡網を作成し、職員間や法人での応援体制を整備している。食料など備蓄に関しては、約3日分準備している。避難訓練時には、居室入り口の利用者のネームプレートに首に掛け持ち出す事で所在確認が出来るように工夫をしている。本年5月には、感染症の事業継続計画のシミュレーションを実施している。	

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	居室には施錠が出来るようにしており、職員や入居者が出入りをする時にはロックをしたり、難聴の方にはご本人にご理解いただけるように援助したりしている。また、他者が無断入室されないようにご本人の許可を受け施錠することもある。	新人研修でモラルや接遇マナー研修を実施している。相手が不快にならない言葉掛けとし、個々の利用者に合わせた言葉掛けをしている。今年度の重点目標である『接遇・マナーの向上』を掲げ取り組んでいる。個人ファイルなど記録物に関しても他者の目に触れないように書庫に整理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	毎朝活動前にはやりたいことを確認している。また、体調不良時や気分的にすぐれない時には、申し出ていただくように健康観察を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	毎朝の健康観察や活動時の体調確認また自分の思いが伝えやすいような環境を作り、職員と接する場面が多くあるように声掛けや会話のやり取りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝自分の好みの服を選んでいただき私服に着替えている。2か月に1度は訪問理美容を受けている。私服や肌着などの交換が必要な時期や、傷んだものについては担当者が連絡をするようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	法人内の中で栄養士による献立が立てられる。食べたいものなどのセレクトを行うようにしている。 ・お汁に入れる具を切ってもらったり配膳や食器拭きなどを一緒にしていただいたりする。時々はおやつ作りなどもしていたくようにしている。	法人のセントラルキッチンから、おかずのみ食材が届くシステムがある。畑で収穫した野菜が食卓に上がることもある。誕生日には法人が運営しているケーキ屋さんからケーキが届き、お祝いをしている。毎月のおやつ作りも力を入れ、『クレープ、おやつ食べ放題』など工夫しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	毎日水分摂取や食事摂取の記録を取り、 1か月の水分量などユニット会議などで 検討するようにしている。一人ひとり にあった食事量や食事形態を職員で共有 し、水分補給の難しい方には好みの物を 提供するなど個々に合わせた支援をして いる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎回食後は口腔ケアを実施している自分 で磨けない方は介助するとともにきれい に洗浄できるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	食事の前など立たれた時には声掛けをし トイレ誘導をしたり、排泄パターンを見 つけ紙パンツやパットの汚染回数が減少 できるように取り組んでいる。	個々の排泄パターンを把握し、定期的な 声掛け、誘導にて排泄支援をしている。 トイレは、1ユニット定員9名に3カ所有 り、必要時は夜間のみポータブルトイレ を使用している。乳製品や食物繊維を多 く取り、水分量を毎日確認している。安 全確認のため、トイレ入り口には鈴を付 けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便を促せるように緩下剤の調整を行っ ている。排便コントロールが出来るよ うに水分や食事の調整も行っている。併 せて定期的に軽度な運動も支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	基本週2～3回程度の入浴が実施出来る ように声掛けを行っている。その日の体 調や状況に応じて入浴していただくよ うにしている。	週2～3回の入浴をし、皮膚トラブルがあ れば毎日足浴を実施している。脱衣場は 暑い時期は扇風機、寒い時期はストーブ を活用し、温度管理をしている。2～3人 入れる浴槽で使い勝手が悪いため、今年 度中に個浴対応が出来る浴槽タイプの改 修工事を予定している。	

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	不眠の生活にならないように、日中の活動を中心に生活していただき、夜間はしっかりと休むことが出来るように援助している。また食事や水分もしっかりと摂取していただき、安定した体調の保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期的に主治医の往診を受けていただきご自分の調子を直接主治医に伝えていただく。その中で投薬があり服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎朝本日の日課は伝えており、その中でもご自分のやりたいことを確認している。計算や塗り絵などのプリント配布・座位で参加できるゲームや運動脳トレや歌・クラブ活動などを支援している。体調不良で居室で休まれる以外はリビングで過ごしていただけるように工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	テラスでの外気浴、苑庭の散歩や周辺の散歩、町内のドライブ(花見や紅葉狩り、美術館の見学)に出かけている。お墓参りや法事に参加出来るように家族と協力しながら外出を支援している。	気候が良ければ、テラスや苑庭の散歩、周辺の散歩をしている。年間行事計画に基づいて、花見や紅葉狩り、美術館など外出をしている。『眼鏡が壊れた』などあれば、個別対応で新しい眼鏡を購入しに出掛けている。感染対策を取って家族対応でのお墓参り、病院受診、法事など出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭を持つことはないがご自分で使用したいと思われる物品の購入については購入できるように援助している。		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人が自ら電話をすることは難しい部分もあるが、家族からの電話は取り次ぎ会話をされている。携帯電話を使用されている方もおられ援助することもある。手紙を書かれると家族や友人へ届くよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせた掲示や飾りをしたり日々の様子が思い出せるような写真を貼ったりしている。またソファや畳のスペースを作りくつろいでいただけるように考えている。トイレや洗面所への移動が分かりやすいように張り紙や矢印などで示している。	平屋建てでユニット間の往来が出来る環境である。毎日、リビングと廊下は利用者と職員が共同で掃除をしている。リビングから直接出入り出来る苑庭があり、気候が良ければ外気浴を楽しんでいる。利用者と職員が共同で作成した季節の飾りつけをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人部屋で完全個室、ベッド使用となりており体調不良時や休養をしやすい環境設定をしている。居室の掃除もご本人様と一緒にしている。ご本人の希望があれば畳使用の居室作りもしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の希望があればテレビや家財を持参していただき、ご自宅と変わらない生活空間の保持に努めている。	利用開始前の情報を得て、利用時に本人と家族と相談し、家具やベッドの位置など居室レイアウトを工夫している。ベッド、エアコン、タンス以外は使い慣れた品物、家族写真など自由に持ち込み可能である。本人の状況に応じて、畳スペースに変更することが出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	高齢化も進み立ち仕事は困難になるが、洗濯物干し・洗濯たたみ・食器拭き・新聞たたみ等座位での仕事ができるよう支援している。		

V アウトカム項目(もみじユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域の中のいち家庭として、常会にも加入している。 業務着任時に確認できるよう掲示し、毎日唱和をすることにより、理念の徹底を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染症予防のため外出は控えていたが徐々に個人での外出は可能になっている。しかし地域全体での取り組みは状況を鑑みて実施している 盆踊りや花火大会の見学、地域の文化祭への苑内の様子や作品展示などは実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	トレーニングルーム併設にあたり独自事業の実施をしている。 月2回専門職の指導を実施している。 希望者が指導を受ける体制がある。その他相談にも応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染症予防のため7月と3月は開催をするがそのほかは中止をしたが文書にて行政、家族、常会役員地元有識者の役員には報告させていただいている。また、質問状も併せて送付し、意見交換としている。それをもとにサービス向上に向けて取り組んでいる。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市役所支所、地域包括支援センター等へパンフレットを配布している。 市と法人との連絡会において、入居状況等を報告し、必要な連絡調整を行っている(地域ケア会議への参加)		

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束的適正化委員会を開催し、それを基にユニット間でも検討し、身体拘束についての意識を高めるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者や介護リーダーが日々、目を配り虐待行為に接触するようなことがあれば直ちに注意し、理解するよう説明をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ユニット会議を毎月1回行い、管理者、看護師、介護リーダーを含めて職員間で知識の共有をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間を十分に取り納得した上で行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	本年度の運営推進会議は、開催を行っており、ご家族の意見や地域交流の図り方などを確認している。		

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員との面接、ユニット会議への参加により、意見・提案を聞き、なるべく採用するように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人の移行により職場環境が変わるが、従来の働き方を基に協議しながら改善している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	まずは法人内での新人研修から始める。毎月決まっている研修内容に併せてビデオ研修を始め確認作業を実施している。各種必要な研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域密着型サービス事業所の交流会が定期的に開催され、三次市市内の事業所間の情報共有を行っている。また、交流会の中で研修計画され、参加するように努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	契約前には事前に面接を実施して、ご本人やご家族の要望を伺っている。安心して施設に馴染んで頂けるように見学の実施を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ケアプランに家族の要望を取り入れている。定期的な連絡などで、意見交換を積極的に行っている。 毎月月末には各担当者、看護師、管理者による苑内での生活の様子を手紙にて伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族と十分に意見交換をし、アセスメントを行っている。その結果をサービス計画書に取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共に生活する場と考え、掃除、洗濯たみ、食器拭き、クラブ活動など本人様が持っている能力を踏まえ、同等の作業や会話をする心を掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	感染症の関係で面会においては、制限をしながら実施させていただいている。 担当者・看護師・管理者より毎月健康面、生活面の状況を手紙にて報告し、活動されている写真を同封し、家族に送付している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙を書いていたいたり、会話による情報収集を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	何事にも複数での作業を行い、職員が間に入るにより対人関係を成立させている。孤立化を防ぐためできるだけ共同で作業をし、行動できるように努めている。毎朝体操や遊んだり、レクリエーションなどを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院等の方には病院の地域連携室と情報共有し、家族には電話をして繋がりを持ち続けている。帰宅困難と思われる入居者には次の入所施設等を紹介したり支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の中での会話において情報収集に努めている。それらはケアプランに取り入れ、サービス提供されることになっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントを行い、職員にも徹底されている。また、随時本人、家族に聞き取りを行い追加記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人カルテに記入し、管理されている。		

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ユニット会議を必ず毎月1回開催し、ケアプランの点検、また新しく取り入れることなど検討している。毎月のモニタリングも実施している。定期的にケアプランを見直すようにしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人カルテには、毎日の生活歴が簡潔に整理されている。翌日に出勤者が閲覧することで情報を共有している。これを参考にケアプランが作成されている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>発生したニーズはユニット会議で検討され、様々なサービスを検討し実際にその人にあったものが採用されている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症予防の為、地域との交流はできていないが、管理者がのぞみが丘運営協議会と連携をとり、情報を収集している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人、家族の受診への要望は出来る限り対応している。また、主治医による定期的な往診もお願いしている。入居者に体調の変化があれば、ちょっとしたことでも、主治医に報告をし、判断を委ねている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期受診における同行や往診時の対応を看護師がされている。家族からの要望、職員の観察における疾患の情報は随時主治医へ連絡、指示を受けて受診の同行するなど支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医による定期往診をお願いしている入院中も地域連携室から情報提供を求め、現状把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族が希望されれば、入院、治療を優先している。その後は主治医、家族と協議をして決めている。事前に特養を希望されている家族に対しては、特養入所の検討をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成し、常時見えやすいところに掲示している。実際に事故発生時にはマニュアルに沿って行動しているその後、事故報告書を作成し職員等で検討している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回施設全体での避難訓練を行っている。緊急連絡網の整備を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	居室には施錠ができるようにしており、職員や入居者が出入りをするときはロックをしたり、難聴の方にはご本人にご理解頂けるように援助している。また、他者が無断入室されないようにご本人の許可を受け施錠をすることもある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	毎朝、活動前には、やりたいことを確認している。また、体調不良時や気分的にすぐれない時は、申し出て頂くように健康観察を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	毎朝の健康観察や活動時の体調確認、また自分の思いが伝えやすい環境をつくり、職員と接する場面が多くあるように声掛けや会話のやり取りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、自分の好みの服を選んで頂き私服に着替えている。2か月に1度は訪問理美容を受けている。衣服や肌着などの交換が必要な時期や傷んだものについては担当者が連絡をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	法人内の中で栄養士による献立が立てられており、食べたいものなどのセレクトを行っている。食器拭きなどをして頂く時々はおやつ作りなどもして頂く。		

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎日、水分摂取や食事摂取の記録を取り、1か月の水分量などユニット会議等で検討している。入歯が合わなくなり、噛みにくい状況になれば細かく刻み食にしたり、嚥下障害のある方にはムース食の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎回、食後は口腔ケアを実施している。自分で磨けない方は介助すると共にきれいに洗浄できるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自分でトイレに行くことができるように声掛けをしている。また、定期的にパンツやパッドの汚染回数が減少できるように排泄の間隔を予想して誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便を促せるように緩下剤の調整を行っている。排便コントロールができるように水分や食事の調整も行っている。併せて定期的に軽度な運動も支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	週2～3回は入浴できるように声掛けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	昼夜逆転の生活にならないよう に、日中の活動を中心に生活して いただき、夜間はしっかりと休む ことができるように援助している。 また、食事摂取や水分摂取もし っかりと摂取していただき、安 定した体調の保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	定期的に主治医の往診を受けて いただき、ご自分の調子を直接 主治医に伝えていただき、その 中で投薬があり服薬支援をして いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	毎朝、本日の日課は伝えてお り、中でもご自分のやりたいこ とを確認している。その日の献 立をお伝えしたり、計算や書き 取りのプリント配布・座位で参 加できるミニゲーム・運動・カ ラオケや歌をうたうこと、演 奏・クラブ活動などを支援して いる。体調不良で居室で休ま れる以外はリビングで過ごして いただけるように工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	現在は新型コロナウイルス感染症 の感染拡大が予想されるので外 出は控えているが受診に関しては 感染予防をして受診している。 気分転換を図るために、苑庭に 出ることやドライブを兼ねて外 の景色を眺めたりする援助はし ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	認知症があるため金銭を持つこ とはないがご自分で使用したい と思われる物品の購入については 購入できるように援助している。		

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご本人が自らが電話をすることは難しい部分もあるが、家族からの電話は取次、会話をされている。携帯電話を使用される方もおられ、援助することもある。手紙を書かれると家族や友人へ届くよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングでの席づくりには、ご本人の体調に合わせ、押し車を押す方には、押し車や車椅子を置くスペースを確保する、また会話やコミュニケーションが取りやすいように席の配置を考えている。トイレや洗面所への移動がわかりやすいようには張り紙や矢印などで示している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人部屋で完全個室となっており、ベッド使用であり、体調不良時や休養をしやすい環境設定をしている。居室の清掃もご本人様と一緒に職員もしている。ご本人の希望があれば畳使用の居室づくりもしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご本人の希望があればテレビや家財を持参していただき、ご自宅と変わらない生活環境の保持に努めている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>高齢化も進み、立ち仕事は困難になるが、洗濯干し、洗濯たみ、食器吹き、新聞たみ、ゴミ箱作り等座位での仕事ができるよう支援している。</p>		

V アウトカム項目(さくらユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームのぞみ苑

作成日 令和5年11月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の参加者より会議参加者のメンバーが固定化されているなどのご意見を頂く。	運営推進会議の充実を図る。	本年度、1月・3月の会議開催より利用者の参加を検討し参加して頂く計画を実施。	令和6年1月 2か月
2	4	運営推進会議の参加者より会議参加者のメンバーが固定化されているなどのご意見を頂く。	運営推進会議の充実を図る。	来年度より、のぞみが丘運営協議会の老人クラブとの協議を行い、新年度からの「よりんさい」の検討をする。	令和6年3月 3か月
3	4	運営推進会議の中で認知症対応型施設の特性を活かした取り組みとして認知症相談を受けてはどうですかと提案される。	地元を対象とした認知症相談の窓口を開設したい。	相談窓口の職員メンバーの決定、地元広報誌、法人広報誌への掲載。	令和6年4月 4か月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。